

平成30年度 ひょうご環境保全創造活動助成 活動報告書

団 体 名	須磨里海の会		
団体の所在地	神戸市須磨区	代表者名	吉田裕之

1. 事業名	須磨海岸における潮干狩り再生を目標とする里海活動
2. 実施期間	4 月～11 月、1 月～3 月
3. 主な実施場所	須磨海岸、広島県大野町
4. 活動形態	団体立ち上げ ・普及啓発活動　・実践活動　・調査活動 ・環境パートナーシップ事業（協働団体名： ） ・その他（ ）
5. 活動内容・結果 （参加者、階層・人数等）	① 干潟における里海活動の先進地視察（1 回） 参加者：高い専門性を持つ会員 3 名（内助成対象は 1 名のみ） ② 勉強会の開催（1 回） 参加者：会員 18 名と須磨海浜水族園の来園者 合計約 30 名。大半が大人。 ③ 人力による海底耕耘（2 回） 参加者：延べ 40 名。漁師や市民など会員のほか、須磨海岸を訪れた家族連れや学生、中高生の釣り客など多様。 ④ アサリ稚貝のトラップ調査 参加者：会員のみ 5 名
6. 成果・反響・反省点等	【成果】 活動①は、須磨海岸での大野干潟（広島県）のアサリ保全手法を参考に須磨海岸で検討している同手法の精度向上。活動②は、会員の知識向上と水族に興味を持つ市民への里海活動の周知。活動③では、海岸での活動の楽しさを覚えるとともに、底質を改善する活動の趣旨や生き物に触れることで、身近な自然、特に須磨海岸への関心を高めることができた。あわせて、須磨海岸のベントスの保全および須磨海岸来訪者への里海活動の周知を行えた。活動④では、アサリが着底し成長できるポテンシャルを持つ場所を、科学的に理解することができた。 これら一連の活動により、漁協関係者の会員を含めてアサリ保全の先進地に視察に行き、その後、先進地において指導に当たっている講師を招いて勉強会を開催した。その際に各地のアサリを比較し、須磨産のアサリを生産することの意義を共有できた。干潟が無く海水浴客で賑わう須磨海岸でどうやって昔のようにアサリがたくさん採れるようにできるかということに関し、会員と講師の間で活発な意見交換が行われたことから、会員はかなり意識が高まったように感じられた。 【反響】 人力で耕耘する活動を見て、須磨海岸に遊びに来ていた親子連れなどが飛び入りで参加した。参加した家族は皆さん、須磨海岸にアサリが生息していることに驚き、この活動の意味を伝えるためにその場で行った海岸の話、人と生き物の関わりの話、海の恵みの話を熱心に聞いてもらえた。そして、このような活動を通じて、環境保全の大切さを理解する輪が確実に広がっていると感じられた。 【反省点】 人力耕耘に参加した年配者の多くは、引っ張るマンガがとても重たいために、引く行為への参加が困難であった。曳きやすくする工夫が必要である。

7.成果物	なし
8.活動写真 説明 (20 字以内)	1.人力耕耘 ①は「船で沖に沈めたマンガを浜から引く様子」。 ②は「赤い爪がマンガで、引いた砂にアサリ発見」 2.アサリ稚貝トラップ調査 ③は「1 年 底に沈めた網袋内で自然に育ったアサリ」 ①  ②  ③ 